

観賞用赤葉稲新品種「べにあそび」の特性

小林 渡・前田一春・神田伸一郎・川村陽一・今 智穂美

(青森県産業技術センター 農林総合研究所)

Characteristics of a New Ornamental Rice Variety with Red Leaf “Beniasobi”

Wataru KOBAYASHI, Kazuharu MAEDA, Shinichiro KANDA, Yoichi KAWAMURA and Chihomi KON

(Agriculture Research Institute,

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center)

1 はじめに

近年、観賞用の稲を使った田んぼアート等が、注目を集めている。青森県では、これまで在来品種である極短稈で葉色が紫色の「短稈紫稲」、極短稈で葉色が黄色の「黄色稲」、極短稈で葉色が濃い緑色の「観稲」の3色品種が主に用いられてきた。しかしながら、田んぼアートの技術が向上するとともに、現場からはさらに精巧な表現をするために、色彩を拡大できる品種育成が要望されていた。

2 育成経過

「べにあそび」は、短稈で葉色が紫色と白色をミックスした観賞用稲の育成を目標として、葉色が紫色を呈する「中稈紫稲B」を母、葉色に白色の縦縞を生じる「奥羽観383号」を父とした交雑後代から育成された系統である。2002年に青森県農業試験場育種部（現 地方独立行政法人 青森県産業技術センター農林総合研究所 水稻品種開発部）において、人工交配を行った。同年冬期間にF₁世代を温室で栽培し、翌2003年にF₂世代をほ場において集団栽培した。2004年にF₃世代で個体選抜を行い、2005年（F₄世代）以降は、系統栽培により選抜と固定を図ってきた。2008年（F₇世代）から生産力検定試験並びに特性検定試験に供試し、さらに観賞用や景観用（田んぼアートなど）として検討した結果、有望と認められたので、「青系観176号」の地方系統名を付した。さらに2010年に、田んぼアートに積極的に取り組んでいる、青森県南津軽郡田舎館村にお

いて田んぼアートでの試験栽培を行った結果、これまででない赤色の稲として有望で、利用の要望があったことから、2011年4月に品種登録出願を申請し、同月、当センターホームページ上で種子価格、配布条件等を公開して、種子の配布を行った。なお、この品種は、特許権者である村井正之氏許諾のもとに、特許4489233の特許技術に基づいて育成したものである。

3 特性の概要

(1) 形態的・生態的特性（表1、2、写真1）

稈長は“極短稈”、穂長は「つがるロマン」並みで穂数は少なく、草型は“中間型”である。移植時の苗の葉色は、やや濃い緑色の一部に紫色を呈する。生育初期は、葉色は全体に紫色で、一部緑色を呈する。生育中期以降になると、葉身に白色が発現し始め、次第に白色部分が拡大し全体にやや薄いピンク色となって、さらに出穂期頃にかけて赤みが増し、全体的に鮮やかな濃いピンク色を呈する。出穂期以降、登熟が進むにしたがい赤みが薄くなり、全体に緑色を帯びた色になる。出穂期及び成熟期は「つがるロマン」より遅く、育成地では“晩生”である。稈の太さは「つがるロマン」よりやや細い“中”だが稈質は“剛”で、倒伏抵抗性は“強”である。収量性は「つがるロマン」の5割程度と少ない。穂孕期の障害型耐冷性は“極弱”である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は“Pia”と推定され、ほ場抵抗性は葉いもち・穂いもちともに“やや弱”である。

(2) 観賞用・景観用としての特性（写真2）

葉色が鮮やかな濃いピンク色であることから、観

賞用・景観用に向き、田んぼアート等では赤い色として描く部分に利用することができる。見頃は、最高分けつ期～出穂揃期頃である。

栽培適地は、青森県内では全域である。生育中期以降高温が続くような気象条件下では、葉身の白色の発現が抑えられ、くすんだ紫色に近い葉色となる場合がある。

4 栽培適地及び栽培上の留意点

表1 形態的・生態的特性調査結果

品 種 名	移植時		稈		葉身 の色	芒		ふ先色	穎色	耐冷 性	いもち病抵抗性			
	苗丈	葉色	細太	剛柔		多少	長短				遺伝子型	葉	穂	
べにあそび	やや短	やや濃	中	剛	濃桃	中	短	紫	赤淡紫	極弱	<i>Pia</i>	やや弱	やや弱	
	(一部紫色)													
つがるロマン	中	中	やや太	やや剛	緑	中	短	白	黄白	やや強	<i>Pia, i</i>	やや強	中	
ユキミモチ	中	中	やや太	剛	緑	稀	極短	褐	黄金色	中	<i>Pia, i</i>	やや強	やや弱	

注) 品種登録出願の特性審査基準等による。

表2 生産力検定試験調査結果

品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏 程度	全重	玄米重	玄米重 標準比	屑米 重	千粒 重	玄米 品質
	(月.日)	(月.日)	(cm)	(cm)	(本/m ²)	(0-5)	(kg/a)	(kg/a)	(%)	(kg/a)	(g)	(1-9)
べにあそび	8.11	10.3	64.9	19.1	354	0.0	99.5	32.2	48	2.1	20.9	7.8
つがるロマン	8.7	9.24	91.5	19.0	417	0.8	177.3	68.4	(100)	3.5	22.3	4.2
ユキミモチ	8.3	9.22	80.9	18.6	427	0.3	157.1	63.9	94	2.5	21.6	5.5

注) 1 2008～2010年標肥区調査の平均値である。

2 N成分は、0.6+0.2kg/a。追肥時期は幼穂形成期である。

3 倒伏程度：0（無倒伏）～5（完全倒伏）。玄米品質：1（上上）～9（下下）。



写真1 「べにあそび」の生育中期の草姿



写真2 2011年度 田舎館村田んぼアート「竹取物語」

(写真のかぐや姫の着物などの部分が「べにあそび」)